



プラセット・タイフーン・スーパー・エクスプレス

産直上映列島縦断超特急!

CINEMA PLACET 1981 PRESENTS

TAISHO
1926
TOKYO

清順流フィルム歌舞伎

かげろう
陽炎座

〈カラー作品〉スタンダード35mm・上映時間2時間19分

かげろう
陽炎座キャンペーンロードショー日程

東京プレミア
8月21日(金)

札幌プレミア

9月2日(水)～9月4日(金)

名古屋プレミア

9月11日(金)～9月12日(土)

大阪プレミア

9月22日(土)～9月26日(土)

福岡プレミア

10月3日(土)～10月5日(月)

★

東京先行ロードショー

8月29日(土)～9月25日(金)

10月10日(土)より全国一斉公開

配給・日本ヘラルド映画

三度びお会いして、
四度目の逢瀬は恋になります。
死なねばなりません。
それでも
お会いしたいと思うのです。



札幌/ビーチフラッシュ
Tel. 011-821-6605

名古屋/プレイガイドジャーナル
Tel. 052-961-7681

大阪/プレイガイドジャーナル
Tel. 06-251-9251

福岡/ヌーベルヴァーク
Tel. 092-712-1609

東京/シネマ・プラセット
Tel. 03-496-5720

CINEMA PLACET 1981 PRESENTS

TAISHO 1926 TOKYO 清順流フィルム歌舞伎 かげろうざ 陽炎座

スタッフ

製作……荒戸 源次郎
企画……伊東 謙二
プロデューサー……花田 良知
脚本……田中 陽造
監督……鈴木 清順
撮影……永塚 栄一
美術……池谷 仙克
照明……大西 美津男
録音……橋本 文雄
編集……鈴木 咲
記録……内田 純子
監督協力……葛生 雅美・音羽菊七
美術協力……西田 真
スチール……山田 脩二
制作主任……丸山 昌夫
音楽監督……河内 紀
演奏……富樫雅彦・篠原 猛・新井 侯幸
外山喜雄とデキシードセインツ
音楽協力……依田 征次夫
結髪……国松 幸子
メイク……田中まり子
衣裳……松川 好伸
装飾……中島 竹彦
小道具……矢野 毅
監督助手……白石 宏一・酒井 直人・祭主 恭剛・渡辺 孝好
撮影助手……藤沢 順一・藤石 修・図書 紀芳
美術助手……細石 照美・部谷 京子
照明助手……鈴木 豊・杉野 昭伸
林 和義・宇佐美 州帥・松井 博
録音助手……中山 義廣・榎本 伸二
効果……小嶋 良夫
編集助手……北沢 良雄
ネガ編集……村山 勇二
車輪……金子 幸化・吹野 朋之・菊池 浩二・宮原 正彦
小林 功・武田秀雄・逸藤 秀司
宣伝美術……杉浦 康平・多田 佳人
宣伝……荒井 勝則
プロダクションマネージャー……宗像 栄子

キャスト

松崎春孤……松田 優作
品子……大橋 道代
みお……加賀まりこ
イネ……梶田 枝里子
節匠……大友 柳太朗
老婆……東 恵美子
院長……佐野 浅夫
番頭……玉川 伊佐男
乞食……磨 赤 児
派手な着物の女……沖山 秀子
女中……伊藤 弘子
頬擦りの若衆……大鶴 四郎
執事……江角 英
首の蒼い男……内藤 剛志
古女房……江の島 るび
背中合せの女……紅沢 ひかる
裏がえしの青年……徳田 昌弘
屑屋……榎本 兵衛
若い女……宮沢 洋子
駅員……佐藤 八作
車掌……中沢 青六
汽車の娘……栗田 陽子
格子の女……川平 京子
看護婦……佐々木 正代
カフェの女……伊藤奈穂美
すみれ……堀 妙子
老人……高杉 哲平
従者……トビー 門口
癡笠の男……小人のマーちゃん
踊子……ビビ・鈴木えみ子・笹井智恵子
「陽炎座」の舞台役者(子供たち)……音羽グループ
和田……原田 芳雄
玉座……中村 嘉彦雄

銀色のドームが私は好きだ。
惚れてる、と云つてもいい。
銀色のドームが陽の光や月の光に輝くとき、それは天使の肌のように見える。
女の肌を愛するように、君もドームの肌に触つて見給え。かすかな震えが
君の手に伝わるだろう。それは――
ドームの裏側の暗闇から伝わる音だ。
私の映画の音だ。不思議な映画の音だ。
去年、このドームは爆発的な人気を得た。一遍に開花した。
からからとツイゴイネルワイセンのフィルムがまわ
ると、ざくざくと日本や外国の映画賞が入つて来た。
ゲンのい、ドーム、ドームに来た者はウンがつき、来ない者は
ウンに見離された。
今年も、ほら、見えるだろう。ドームの天辺のへソから、幸運の女神たちが一斉に舞い降りるのを。
彼女たちも、陽炎座を見に来たのだ。そして君たちが、陽炎座を見、帰るとき、
君たちの肩にとまつて彼女たちも出てゆくのだ。
陽炎座は私たちスタッフ、キャストが精をこめ華美につくり上げた心算だ。而しドームの公開方式は
極めて地道で、一度コケたら立ち直りは利かない。どうか皆さんも私がドームを愛するように、友人知己、
恋人、親も子までもお誘い合せのうえお越し下さるようお願いします。

鈴木清順



8月29日(土)より東京先行ロードショー!

特別鑑賞券1,300円発売中!

(当日1,500円の処)都内各プレイガイド、大学生協にて

上映時間(連日)

11:30/2:10/4:50/7:30

渋谷 パルコ・シネマ・プラセット (オリンピックプール前)
TEL 464-8396





より速くより速くより美しく
メイク23秒
資生堂ベネフィークグレイシィ
パウダリファウンデーション6色各3,500円

CINEMA PLACET

愛蔵本『陽炎座』8月20日刊行! 予価2,800円

清順流フィルム歌舞伎

かげろうざ

陽炎座



三度びお会いして、
四度目の逢瀬は恋になります。
死なねばなりません。
それでも
お会いしたいと思うのです。

大松 楠田 道優 代作
加賀 枝里子
大楠 柳太朗
東 恵美子
磨 赤見
玉川 秀子
佐野 伊佐子
伊藤 弘子
佐藤 芳雄
原田 雄
中村 嘉律雄
製作 荒戸源次郎
企画 伊東謙二
プロデュース 花田良知
原作 泉鏡花
脚本 田中陽造
撮影 永塚栄
美術 池谷仙克
照明 大西美津男
録音 橋本文雄
音楽監督 河内紀
監督 葛生雅美
美術協力 鈴木真
編集 鈴木西田
監督 鈴木清順

TAISHO
1926
TOKYO

CINEMA PLACET 1981 PRESENTS CINEMA PLACET + NIPPON HERALD FILMS, INC. 配給



<カラー作品>

35mmスタンダードサイズ

清順流フィルム歌舞伎

上映時間/2時間19分

かげろゝざ 陽炎座

SEIJUN SUZUKI'S



KAGEROUZA

日本ヘラルド映画・配給



清順美学、絢爛とここに満開!

「ツイゴイネルワイゼン」で、キネマ旬報ベストテン第一位をはじめ、国内の数々の賞を総なめにし、ベルリン映画祭でも審査員特別賞をさらってみせた、シネマ・プラセット（製作）・鈴木清順（監督）のコンビが、さらにその製作規模をスケールアップ、さらにその華麗にして不敵な映像世界を満開させて放つ

大作、それがこの『陽炎座』（かげろゝざ）。

松崎という新派の劇作家が、たび重なる偶然によって知りあつた品子という謎の美女の誘いにたぐり寄せられて、女たちの魔性の愛と憎しみの世界に踏みこみ、木の葉のように翻弄されながら、現世ともあの世ともつかぬあやかしの世界をさまよい歩くという物語。泉鏡花の同名の原作を田中陽造が脚色した。

長い不遇を経て「ツイゴイネルワイゼン」で不死鳥のように甦つた鈴木清順監督が、大正風俗を背景に生者と死者の交錯という得意の世界を得て、奔放華麗な色彩美と意表をついた映像を躍動させる。まさに、清順流

フィルム歌舞伎の醍醐味が横溢である。

カメラは、清順作品の名コンビである永塚一栄、美術を池谷仙克（「海潮音」）、照明を大西美津男、音楽は河内紀の担当で、演奏をモダンジャズ界の異才富樫雅彦が行なっている。

（シネマ・プラセット作品）



金沢、夕月楼にてお待ち申し候

大正末年の一九二六年。東京。新派の劇作家松崎春孤（松田優作）は、落とした付け文が縁で品子（大楠道代）という美女と知りあい、偶然というにはあまりにも出来すぎたかたちで三度あう。

松崎の下宿先の女であり、かつて玉脇の屋敷に奉公していたみお（加賀まりこ）は、品子が先妻であり、イネは玉脇が留学先のドイツから連れてきた後妻のドイツ娘のイレネであることを説明したが、この女の腹も、松崎には読めない。

金沢、夕月楼にてお待ち申し候、という品子からの手紙に誘いだされた松崎は、北陸行きの汽車に乗るが、玉脇もまたその汽車に乗っていた。金沢の夜叉

ケ池まで亭主持ちの女と若い愛人の心中をみにゆく。玉脇の言葉も謎めいていく。

松崎は、その不思議をパトロンである玉脇（中村嘉津雄）に話すが、ある夜品子と一夜をすごした部屋が玉脇の邸宅の一室とそっくり同じであることを発見した松崎は、品子が玉脇の妻ではないか、という疑念にとりつかれる。ところがそんな松崎の前にもう一人の美女イネ（楠田枝里子）が現われ、玉脇の家

内です」と名乗る。しかし奇怪なことに、イネは重い病気で、松崎と出合う前に病院で息をひきとっていた。

金沢でめぐりあえた品子は、松崎に手紙を出した覚えはないという。「あれは夢の中で書いたもので、お伊ネさんが手紙にしたのです」

品子との心中をそのかす玉脇から逃れた松崎は、アナキスト和田（原田芳雄）と知りあいて、老人形師（大友柳太朗）のもとで博多人形裏返しの世界を覗く。松崎は死後の世界を目撃して衝撃をうけ、迷宮をさまよひ、夢うつつのなかでイネと会う。そして、幻聴のような祭はや

物語

しにみちびかれて奇妙な芝居小屋、陽炎座へ。そこは、子供たちの不思議な芝居と、品子、イネ、玉脇と妖しい人間関係がからみあうあやかしの世界。そして陽炎座は松崎の目の前で崩壊し、夜叉ケ池には、玉脇、品子の心中死体が浮かび上る。

魂をうばわれた人間のように東京に帰った松崎のもとに品子からの手紙が届いていた。

うたた寝に恋しき人を見てしより

夢てふものは頼みそめてき

解説

10月31日(土)

STARTING OVER

ブラセット
再び“産直上映”

渋谷 パルコ・シネマ・プラセット
オリンピックプール前 Tel. 464-8396

連日 11:30 2:10 4:50 7:30

